

平成 24 年度
事業報告書

特定非営利活動法人 日本リザルツ



平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日

日付	活動内容
1 月	
3～6 日	<p>フィリピン現地視察</p> <p>2011 年の台風・洪水の被害をうけたバスーラの家（フィリピン、マニラ市）を白須事務局長とスタッフが視察し、修繕計画を現地 NGO と打ち合わせた。また、その他の浸水地区を視察した。現地大使館の草の根無償資金協力制度や外務省の NGO 連携無償資金協力制度等を利用してバスーラの家を再建を計画している。</p> 
8～12 日	<p>APPF 開催</p> <p>東京で、アジア太平洋議員フォーラム（APPF）が開催された。川田龍平議員は世界の感染症対策を訴える演説を行い、白須事務局長は、日本の NGO 代表として参加を許され傍聴した。その後、世界基金関係者と意見交換を行った。</p>
10～13 日	<p>GAVI アライアンス北島千佳上級資金調達官と UNRWA 清田明宏保健局長の来日</p> <p>GAVI 事務局日本担当の北島千佳上級資金調達官と国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）保健局長兼世界保健機関（WHO）特別代表の清田明宏氏が来日し、白須事務局長は外務省・財務省・厚労省の関係者との面会をセッティングし、同席した。</p>  <p>清田氏とは 12 日に小宮山洋子厚生労働大臣を表敬訪問した。日本発の母子手帳が中東地域で拡大していること等を報告した。また大臣からは、国際保健は日本が世界に貢献できる分野でこれからも支援していきたいとお話があった。日本リザルツはこれを機会に UNRWA の日本での周知にも協力していく方向である。</p>
11 日	<p>ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口</p>
15 日	<p>専門家相談会と亀田興毅選手復興イベント（釜石市平田第 6 仮設住宅）</p> <p>ジャパン・プラットフォームの助成による東北支援プロジェクトで、釜石市平田第 6 仮設住宅で大規模な専門家相談会を行った。弁護士 3 名、中小企業診断士、医師、整体師など多数の専門家に参加していただいた。朝から途切れることなく相談業務に追われた。NHK の取材を受け、相談会の様子がお昼の放送に流れた。また、会場にボクシング世界チャンピオンの亀田興毅選手も駆けつけ、会場に溢れんばかりの人（300 名）が集まり、ボクシングを通じて、仮設住宅とその周辺の住民、特に子供たちとの交流を深めた。イベントの様子は、地元の復興釜石新聞や岩手日報の他、毎日新聞や TBS「みのもんたの朝ズバッ！」などのメディアの取材が殺到した。また、これを機に、亀田 3 兄弟が今年の試合でダウンを 1 回奪うごとに 10 万円を積み立てる「亀田 KO 基金」を設立することを明かした。</p> 
19 日	<p>UNRWA 職員の事務所来所</p> <p>UNRWA 職員である羽隅温子氏と大澤小枝氏がガリザルツ東京事務所を来訪された。活動報告や日本での周知と資金確保などについて話し合い、協力していくことになった。</p>

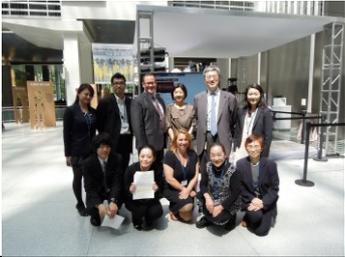
21～23日	仮設住宅のワークショップ（山形県天童市） 遠野スタッフ3名が市の職員関係者と共に、仮設住宅の住民向けのワークショップに参加した。これは、さわやか福祉財団が主催した山形へのバスツアーだった。
24日	国際連帯税フォーラム理事会 代表理事である白須事務局長が、国際連帯税フォーラム理事会に出席した。
27日	東北支援事業に関するJPFとの意見交換 ジャパン・プラットフォーム（JPF）の東北支援事業全体の評価事業のため、JPF 早川香苗氏と関西大学永松伸吾氏が東京事務所を来訪した。
31日～	ハイチ事業の事後評価 ハイチ結核患者発見拡大プロジェクト第一期の終了に合わせ、評価ミッションで森亨先生（STBJ 代表理事）、角泰人医師（日本リザルツ顧問）がハイチに渡航した（～2月6日）。現地では、スタッフ石塚が会議や関係者との面会などの調整を行った。
2月	
5～9日	カナダに須藤シスターを訪問 白須事務局長は、須藤昭子シスターが所属しているカナダ・モントリオールにあるクリストロワ修道院本部を訪問し、ハイチでの事業について打ち合わせを行った。
6日	国際連帯税議員連盟・勉強会開催。 白須事務局長が勉強会に参加した。
9日	ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）常任理事会への出席
10日	ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口
11日	ストップ結核パートナーシップ関西 国際セミナー 財団法人大阪公衆衛生協会の主催のもと、日本リザルツとストップ結核パートナーシップ日本の協力により国際セミナーが開催された。日本リザルツはプログラム内容をアドバイスするとともに資金面でも支援した。当日、リザルツ全職員とボランティアも国際セミナーに参加。元 WHO 結核、エイズ、マラリア対策部長を歴任された古知新博士による「世界から見た日本、日本の結核対策」の基調講演が行われた。ストップ結核パートナーシップ日本シニアアドバイザーの角泰人医師（日本リザルツ顧問）も参加し、ハイチ国等の結核対策について話した。大阪あいりん地区の結核の現状と課題についてスピーチされたヘルスサポート大阪常任理事逢坂隆子の講演では、結核患者（調査対象者）の発見、治療への活動に関しての話があった。また、大阪公衆衛生協会会長の南波正宗先生や、司会進行役の関西大学社会安全学部・社会安全研究科教授の高鳥毛敏雄先生の他、世界のストップ結核チャンピオンの亀田興毅選手もセミナーに参加した。その後の交歓会では、遠野事務所スタッフ村上にも発表の機会があり、東北復興支援の現状と被さい地の方の声と、4,000部の「結核の手引き」を配布したこと等を伝えた。
16日	元 WHO 結核、エイズ、マラリア対策部長の古知新氏と外務省訪問等 古知新博士は白須事務局長と日本リザルツスタッフとともに、外務省を訪問し、また、武見敬三氏（東海大学教授、前参議院議員）、黒川 清氏（日本医療政策機構代表理事、政策研究大学院大学教授）、稲場雅紀氏（アフリカ日本協議会）、ウィリアム・ビショップ氏（日本ベクトン・ディッキンソン株式会社コーポレートアフェアーズディレクター）と面会し、今後の国際医療保健や NGO の取り組みについて意見交換を行った。



17日	ソマリア暫定政府代表の訪問 ソマリア暫定政府代表のブルハン・ハーシー氏が「ソマリアを支援する会」の後藤ハル氏らと共に事務所へ来訪した。現在ソマリアは、飢饉や内戦、干ばつなどに苦しみ、そのような危機的状況から、ソマリア沖での海賊事案が頻発している状況とのこと。日本リザルツは、日本政府によるソマリア暫定政府承認に向けてアクションを行うことを確約。	
19日	専門家相談会（釜石市唐丹町小白浜仮設住宅） 釜石市唐丹町小白浜仮設住宅にて出張形式の専門家相談会を開催した。東京から幸道秀樹医師、遠野から畠山美代子保健師が参加し、住民からの相談に応じた。住民からは医師がなかなか来ないので助かった。一回だけでなく何度も顔を出してくれるので相談出来るとのコメントがあった。	
21日	国際連帯税フォーラム理事会開催 白須事務局長が代表理事として参加。	
23日	財務省訪問 白須事務局長は、日本 BCG 製造株式会社の金子洋氏、保富康宏教授（医薬基盤研究所霊長類医学研究センターセンター長）と共に、財務省を訪問し、結核ワクチンに関する意見交換を行った。	
24日	ソマリア暫定政府代表の外務省訪問 ソマリア暫定政府代表ブルハン・ハーシー氏と「ソマリアを支援する会」の後藤ハルさんら、計6名で外務省を訪問した。現在日本政府はソマリア暫定政府を承認しておらず、結果 JICA からの二国間援助等が受けられないでいる。今回の訪問で、暫定政府による国内の統治が承認のための大きな要素である一方、外務省でもかなり前向きに考えていただいている印象も受けた。	
25日～	研修担当医師のハイチ入り ハイチ結核患者発見拡大プロジェクトの第二期が開始され（27日～）、大類隼人医師（兵庫医科大学助教・日本リザルツアドバイザー）が LAMP 法の研修担当講師としてハイチに渡航した（～3月7日）。第二期は6月30日に終了予定。	
26日	専門家相談会（釜石市鶴住居町田郷 C、D 仮設住宅） 2月26日、鶴住居町田郷仮設住宅 C、D 談話室にて出張形式相談会を実施した。佐藤文行弁護士が参加し、「こうすけ君の命のアサガオ」の写真展覧会も実施した。	
29日	TICAD V に関するシンポジウムに出席@世界銀行東京事務所東京開発ラーニングセンター 白須事務局長は、ソマリア暫定政府代表ブルハン・ハーシー氏とともに TICAD V は何を指すのかについての市民社会シンポジウム（主催：動く→動かす稲場雅紀氏）に参加した。TICAD V（2013年6月1～3日、横浜市）の準備会議のために、外務省、アフリカ連合、在京アフリカ外交団、世界銀行、国連、国連開発計画（UNDP）など共催機関のゲストを迎え、活発な意見交換を行った。	
3月		
1日	外務省・国際 NGO 定期会合 昨年 ODA 予算、特に世界基金について減額がないよう山根隆治外務副大臣に日本リザルツはお願いし、更に本年に関しては世界基金の予算増額を要請したところ、2012年度予算の水準に取り戻すことを約束された。また ODA2012年度及び2013年度予算について外務省の本清耕造国際協力局開発協力総括課長、薄井次郎国際協力民間援助連携室首席事務官と話し合った。	
2日	NGO ユニットの意見交換会に参加 JPF に加盟する NGO が集まり、助成審査の在り方などについて意見交換を行った。	
4日	専門家相談会（釜石市鶴住居町田郷 C・D 仮設住宅） 釜石市鶴住居町田郷 C・D 仮設住宅で専門家相談会を行った。事前に釜石復興新聞にも相談会	

	<p>の案内記事が載り、会場となった仮設住宅以外の住民の方も相談会場に足を運んでいただいた。佐藤文行弁護士の法律相談、幸道秀樹医師は血圧講座を開催し、奥寺修税理士への相談は、確定申告の時期とも重なり、相談者数は多かった。</p>
7日	<p>ハイチから帰国した日本リザルツスタッフ石塚彩が東京事務所での業務を開始した。</p>
8日	<p>外務省訪問 白須事務局長とハイチから帰国した石塚彩が外務省中南米局カリブ室の外務事務官廣田千里氏と面会し、ハイチ国での活動報告を行い、今後について意見交換を行った。</p>
11日	<p>ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口 東日本大震災からちょうど一年、ソマリア暫定政府代表のブルハン・ハーシー氏など多くのボランティアも手伝い募金活動を行った。姫井由美子参議院議員も忙しいなか、募金活動に参加した。東日本大震災から1年、被災者の実情に進展がないことを忘れてはならないと強くアピールした。</p> 
12日	<p>世界銀行谷口和繁駐日特別代表と日本リザルツが会談 白須事務局長と谷口特別代表が結核対策、国際保健及び世界保健システムについて話し合った。</p>
15日	<p>ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）決算理事会への出席 玄葉光一郎外務大臣と意見交換@外務省飯倉会館 姫井由美子参議院議員に同行し、白須事務局長と岡本直彦監事は、ソマリア暫定政府代表のブルハン・ハーシー氏とともに玄葉光一郎外務大臣に面会しソマリアについて意見交換を行った。</p> <p>国際連帯税提言書を野田佳彦総理大臣に提出 国際連帯税創設を求める議員連盟が、世界連邦推進日本協議会とともに、「国際連帯税に関する提言書」を野田総理に手交した。国際連帯税創設を求める議員連盟から参議院議員林芳正会長、衆議院議員西村智奈美事務局長が参加し、世界連邦推進日本協議会の海部俊樹会長が概略を説明した。これに対し、野田総理はにこやかに提言書を受け取り、「今後もG20など、国際連帯税が話題になる時には是非皆さんの知恵を貸してほしい」と述べた。</p>
16日	<p>NGO インターンシップ報告会@広尾 外務省 NGO インタンプログラムの報告会に日本リザルツ日置哲二郎が参加し、プログラムの報告を行った。白須事務局長をはじめ、事務局スタッフも応援に駆け付けた。</p>
18日	<p>専門家相談会（釜石市栗林町仮設住宅） 釜石市栗林町第3仮設住宅の談話室にて、出張形式相談会を開催した。中小企業診断士宮健氏と畠山美代子保健師が住民からの相談に応じた。宮先生は岩手県のグループ補助金制度にも精通しており、訪れた人達に丁寧なアドバイスをを行った。整体師も相変わらず大活躍だった。</p>  <p>Tシャツが国境を越えた 国連機関であるUNRWAが企画したイベントで、中東のパレスチナ暫定自治区のガザ地区の子どもたちおよそ1,000人が、東日本大震災の犠牲者を追悼し復興への願い、3月18日に日の丸などを描いた手作りのたこを揚げた。その際に日本リザルツが手配したおなじみの「We ♥ Japan」Tシャツを中根保株式会社から寄付していただき、子供達が着て活動した。この模様はNHK「おはよう日本」で数回放映された。</p> 
21日	<p>財務省国際局国際開発政策課課長補佐の新田桃子氏と面談。</p>
22日	<p>GAVI アライアンスの北島千佳上級資金調達官の来日 GAVI アライアンスの北島千佳上級資金調達官が来日し、白須事務局長と共に、日本ベクトン・ディッキンソン株式会社のシニアマネージャーの向洋子氏を訪ね、ワクチンに関する意見交換を行った。</p>

26 日	<p>世界基金へ日本が過去最高の 3.4 億ドルを拠出</p> <p>日本政府による 3 億 4000 万ドルの新規拠出に対し、世界基金が歓迎の意を表した（3 月 13 日）。この拠出額は、2010 年の 2 億 4600 万ドルを大きく上回る最大のものであり、過去最高額である。世界基金に対する日本の確固たる信念が伺える。日本政府による 2011 年分の世界エイズ・結核・マラリア対策基金（世界基金）への拠出は、昨年 3 月に発生した東日本大震災の影響によって 1 億 1400 万ドルに減少していた。日本リザルツは、一次補正予算案における 501 億円の ODA 削減に伴い、世界基金への拠出も 159 億円が全額見送りとなったことに対し、JANIC、動く→動かすと共に声明文を持って全国会議員へまわり、国際 NGO としても ODA 削減には強く反対する旨を発言していた。そして、昨年 5 月 2 日、世界基金への日本政府からの拠出削減への早期対応を求める要望書を結核議員連盟として内閣総理大臣宛てに提出し、白須事務局長も同行し、枝野幸男官房長官から「世界基金の重要性の認識のもと、今後の補正予算編成に向けて前向きに検討していく」という回答が得られた。</p>	
27 日	<p>ODA 委員会を国会議事堂にて傍聴</p> <p>参議院政府開発援助等に関する特別委員会で姫井由美子議員が玄葉光一郎外務大臣や山根副大臣などに質問を行った。日本リザルツ白須事務局長とスタッフ 3 名、ソマリア暫定連邦政府代表のブルハン・ハーシー氏と共に、国会議事堂にて ODA 委員会を傍聴した。今後の ODA 予算について、アフリカの ODA について、及び TICAD V についてそれぞれ質問をされ、アフリカの ODA も重視していくこと、日本大使館の増設計画、またソマリア暫定連邦政府の認証など、外務省に改めて検討していただくよう、姫井由美子参議院議員が要望した。</p> <p>「NGO が見た東日本大震災・連携の課題」シンポジウム@JICA 地球ひろば講堂 白須事務局長は、国際協力の経験を活かし、次なる大災害に備えるためのシンポジウム（JANIC 主催）に参加した。</p>	
28 日	<p>ジャパン・プラットフォーム東日本大震災支援活動報告会に参加</p> <p>国連大学ウ・タント国際会議場で、これまでの JPF 助成事業の活動報告と海外から寄せられた様々な支援の紹介やいかにして多様な関係者が垣根なくつながる支援をつくれるのかなどが話し合われたシンポジウムに参加した。遠野まごころネットの多田一彦氏の一言一言に共感すべきものがあった。</p>	
29 日	<p>日本リザルツ理事会、総会開催</p>	
30 日	<p>ワクチンのアドボカシー活動@議員会館</p> <p>GAVI アライアンスのワクチンに関するリーフレットを 722 名の全国会議員に配布をした。</p>	
4 月		
1 日	<p>釜石市平田地区の畑のガレキ除去作業</p> <p>3 月 31 日に引き続き、釜石市平田地区にて農業分野専門家のアドバイスをを受けて畑ガレキ除去作業を行った。約 50 名のボランティアが参加し、大きなガレキ拾い、土の掘り起し作業、細かいガレキ拾いと畑周辺のガレキ拾い、環境整備を行った。</p>	
2 日	<p>世界連邦運動協会と日本リザルツとのミーティング</p> <p>IMF/世界銀行総会のサイドイベント、アフリカの保健対策改善について日本の役割、TICAD 推進（提案）についてミーティングを行った。IMF/世界銀行今秋定期総会の CSO ネットワーク幹事会の幹事に選ばれた。</p>	

4日	<p>亀田興毅ボクシング選手、世界タイトルマッチ観戦</p> <p>岩手県釜石市の子供やその家族など15人が、亀田興毅選手の応援のために、横浜アリーナで行われたボクシングの試合に招待された。亀田興毅選手は1月15日に、日本リザルツが釜石市平田第6仮設住宅で開催した復興支援イベントに駆けつけ、子供たちとボクシングで交流した際、子どもたちを中心に世界タイトルマッチの観戦に招待することを約束し実現したものの。</p>	
7~8日	<p>釜石市甲子町第7仮設住宅と釜石市栗林町第4仮設住宅で小さな相談会を開催</p> <p>東京からボランティアの水澤茂さんが応援に来られ、バイオリン演奏を行った。住民の方の表情がしだいに和やかに変化していく様子を感じられた。「私、クラシックが好きなの」と言ってバイオリンの音色に長い間、耳を傾ける女性もいた。また「幸せなごうカー」や「こうすけ君の命のアサガオ」の写真展の展示も行った。</p>	
11日	<p>ハイチ・つなみ募金活動@水道橋</p>	
12日	<p>世界銀行のキャロリン・ハイダー氏と会談。</p> <p>白須事務局長は同氏と TICAD V や国際保健システム等について協議を行った。10月の総会における当団体の活動の参考となる話し合いだった。</p>	
15日	<p>専門家出張相談会（釜石市栗林町第4仮設住宅）</p>	
15~23日	<p>IMF/世界銀行 2012 年春期総会に出席</p> <p>ワシントンで開催された同総会に日本リザルツから白須事務局長と石塚が出席し、米国リザルツ、ドイツ財団、アエラスを訪問。日本の CSO を代表してプラン・ジャパンの鶴見和雄専務理事、ジョイセフの石井澄江専務理事、JACSES の渡辺有輝プログラム・コーディネーター、そしてユースグループを代表して早稲田大学の加藤翼氏と慶応義塾大学の永岡さやか氏も総会に出席した。</p>	
23~24日	<p>財務省と元 WHO 結核、エイズ、マラリア対策部長古知新博士の会談</p> <p>日本リザルツの調整により、前世界保健機関（WHO）結核、エイズ、マラリア対策部長を歴任された古知新博士は世界銀行の保健政策と世界基金について財務省国際局担当審議官の門間大吉氏と主計局の羽深成樹次長と会談した。</p>	
27日	<p>IMF/世界銀行総会における TICAD サイドイベントに向けた協議</p> <p>日本リザルツは WHO に勤務され現在、東京大学教授である渋谷健司氏と世界基金、世界銀行、国際保健や TICAD について協議した。</p> <p>厚生労働省の外口崇保険局長との会合</p> <p>ストップ結核パートナーシップ日本の金子洋常任理事、独立行政法人医薬基盤研究所の保富康宏教授と日本リザルツが参加し、結核ワクチンの開発について話し合った。</p>	
5月		
1~5日	<p>ハイチ出張</p> <p>日本リザルツ白須事務局長及びスタッフがハイチへ出張し、JICA や大使館への訪問及びハイチプロジェクトの中間評価作業を実施した。また併せてハイチ保健省結核部長のリチャード・ドメサ先生と会合を行い、JICA と世界基金に向けて結核対策についての提案書を提出した。</p>	
8日	<p>ハイチ・つなみ募金@水道橋駅</p>	
9日	<p>IMF/世界銀行 CSO 連絡会第一回幹事会</p> <p>白須事務局長と石塚が出席。48年ぶりに東京で開催される「IMF/世界銀行 2012 年秋期総会」</p>	

	に日本の NGO や市民社会組織（CSO）が連帯し、情報共有、海外 CSO 及び世界銀行・IMF との対話を促し、提言活動をするを目的としてこの連絡会が結成された。	
16～17 日	国会議員事務所にリーフレット配布 日本リザルツがキャンペーン事務局を務める GAVI アライアンスと UNRWA への日本政府の更なる拠出を求めるため、722 人の全国国会議員事務所を廻り、リーフレットの配布を行った。GAVI、UNRWA に対する活動も継続的に行うことでその重要性が再認識され、日本政府として十分な支援が行われるようになることが望まれる。	
18 日	衆議院議員第二会館にて民主党『仮設住宅等生活支援対策チーム』第 7 回会議 避難生活に関する問題点や今後の課題についてのヒアリングに白須事務局長と遠野事務所の村上が共に参加した。今後、仮設住宅でアンケートなどを行う予定だが、今回の会議はこれまでの日本リザルツの活動と今後の展開の参考となるものであった。	
19 日	国際連帯税総会と記念講演会 青山学院大学で国際連帯税フォーラム総会を開催した。また記念講演では内閣官房審議官、水野和夫氏から『過剰マネーと利子率の変革～グローバル化の真実』についての講演があった。日本リザルツは同フォーラム代表理事として国際連帯税の具現化についてアクションを継続していく所存である。	
21 日	参議院議員会館にてラジオ番組出演収録 荒井広幸参議院委員事務所にて行われた RFC（ラジオ福島・ちょっとブレイク）収録に日本リザルツ白須紀子事務局長が出向いた。 Alliance for Global Impact（A4GI）の立ち上げに向けたミーティング ～我が国の開発分野におけるプレゼンスの向上に向けて～ A4GI 設立の目的と手段に係る意見交換が行われた。A4GI とは開発分野に係る NGO や企業、学界、メディア等の民間セクターのフォーカル・ポイントを設立し、定期的に国会議員や国民への情報共有を行うことにより ODA 予算/実績額を維持・増額させると共に、グローバルヘルスをはじめ、インパクトの大きい分野により効率的に資金分配し、効果的な支援をすることを通じ国際社会における我が国のプレゼンスを向上させるのが目的としている。	
23 日	JPF ハイチ事前ヒアリング	
24 日	「国際医療貢献・病院船団」実現のためのシンポジウム 浅野茂隆日本リザルツ理事長の旗振りのもと、参議院議員会館・講堂で開催。内閣府による「災害時多目的船に関する検討会」の報告書に関するテーブルディスカッションと実現への期待、大災害時の関係省庁との協力体制、平時・重大感染症流行時の国際福祉・医療貢献、母港・寄港の新たな価値創造、そして「アジア太平洋医療連帯における日本の戦略・医療船と医療特区構想」についての特別講演が行われた。 第 103 回 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会 定例通り、外務省にて開催。議題は G8 サミット報告、世界基金の改革の現状と国際保健分野への影響、平成 24 年度保健関連日本 NGO 連携無償資金協力案件、「結核国際研修 50 周年記念式典・シンポジウム」など。	

24～29 日	<p>ジョアン・カーターリザルツ教育基金代表の訪日 慶応義塾大学の招聘によりジョアン・カーターが来日。25日に世界銀行との向き合い方についての勉強会を実施。出席者は川田龍平参議院議員、プラン・ジャパン鶴見和雄専務理事、動く→動かす稲場雅紀事務局長、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン堀江由美子アドボカシーマネージャー、日本リザルツの浅野茂隆理事長、白須事務局長をはじめ、リザルツスタッフなど。26日には慶応義塾大学G-SEC復興会議にて講演活動を行い、28日JICAにて「JICAによるアドボカシー活動」を日本リザルツとともに提案。その後、山根隆治外務副大臣、姫井由美子参議院議員、逢沢一郎衆議院議員、武見敬三前参議院議員、外務省国際協力局能化正樹参事官、小沼士郎国際保健政策室長、財務省、金融庁、JICA、民間企業などと精力的に面談を行った。ジョアン・カーターからアドボカシー活動の重要性を問題提起してもらうとともに現在の日本におけるキーパーソンに団体の活動をアピールでき、とても有意義な一時であった。</p>	
27日	<p>専門家相談会を開催（釜石市箱崎地区仮設住宅）</p>	
28日	<p>GAVI アライアンス北島上級資金調達官による講演 GAVIの北島千佳上級資金調達官が日本リザルツ事務所にて「ミレニアム開発目標達成へ、GAVI アライアンスの貢献」についてオープンセミナーを行った。</p>	
29日	<p>GAVI アライアンスと外務省山根隆治外務副大臣との面談 白須事務局長はGAVI アライアンスの北島千佳上級資金調達官、姫井由美子参議院議員と共に山根副大臣に面会した。</p>	
29日	<p>IMF/世界銀行春期総会 2012年の報告 JICA 地球広場にて石塚がグローバルヘルス担当として保健分野の最新動向について報告を行った。参加者からQ&Aがあり、IMF・世界銀行から示されたNGOとの協働に対する見解やどうすれば今後の年次総会が改善できるかなどを話し合った。</p>	
31日	<p>財務省と面談 白須事務局長が財務省に赴き面談。</p>	
6月		
3日	<p>専門家相談会を開催（釜石市旧小川小学校仮設住宅）</p>	
6日	<p>シスターの思いを継ぐハイチの医師たち 参議院議員会館で「ハイチからの報告会&絵画展」が開催され、日本リザルツも参加。この会の呼び掛け人である藤田幸久財務副大臣、谷合正明、姫井由美子両参議院議員、首藤信彦衆議院議員、を始め、多くの国会議員、外務省中南米局や国際協力局、総合外交政策局、NGOの難民を助ける会、Plan Japan、Future Codeなど、多くの方々が参加した。</p>	

	<p>白須事務局長がワリード・シラム駐日パレスチナ大使との面談 姫井由美子参議院議員と白須事務局長はワリード・シラム駐日パレスチナ大使と面談。3月18日にパレスチナ暫定自治区ガザ地区の子供達約1,000人がWe ♥ JapanのT-シャツを着て、東日本の復興を願って凧揚げしたことを大使に報告した。また同様のイベントを岡山で行いたい旨、姫井由美子参議院議員が話しイベントへの協力をお願いした。これに対し、大使は協力を約束するとともに他国の大使にも呼びかける旨了解してくれた。</p>	
<p>8日</p>	<p>ベナン共和国から来たオボス神父 西アフリカのベナン共和国から来日され、横浜薬科大学漢方薬学科に在籍しているオボス・コショレ・エチェン神父と面談した。懇談会にはハンガーフリーワールドから渡邊清孝事務局長、日本経済団体連合会の本田敬吉顧問、そして日本リザルツからは白須事務局長とインターンの松倉が参加した。オボス神父は、日本で学んだ漢方や生薬の知識を母国に持ち帰り、現地の薬草を使ってベナンの人々の体に適した生薬の研究・生成をするという目的で日本へ留学している。アフリカ最貧国の一つとされるベナン共和国における医療、保健、衛生などの問題について、流暢な日本語で熱く語ってくれた。</p>	
<p>9～11日</p>	<p>財務省主計局大江亨主査の東北視察 財務省主計局大江亨主査から白須事務局長に要請があり対応したもの。日本リザルツ東北スタッフが視察に同行した。</p>	
<p>12日</p>	<p>結核ワクチン開発に向けた資金調達案件 金融庁監督局有泉秀証券課長にワクチン債についてコンタクトを取った。</p> <p>世界の子どもたちのためにポリオ根絶を目指す議員連盟第5回総会 衆議院議員会館にて鳩山由紀夫氏（会長）と川口順子氏（幹事長）の挨拶 の後、米国シアトルのビルゲイツ氏訪問の報告、ナイジェリア支援に関する各省・関係機関からの報告があった。日本リザルツから白須事務局長が出席。</p> <p>ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口</p>	
<p>13日</p>	<p>TICAD Vに関する外務省・NGO対話：外務省国際会議室 外務省国際協力局能化正樹参事官の進行で、外務省草賀純男アフリカ審議官、動く→動かす津山直子代表の挨拶後、第四回 TICAD 閣僚級フォローアップ会合の報告及び TICAD V に向けたスケジュール等について外務省から報告があった。NGO 及び多くの団体から計 42 名参加し、日本リザルツから白須事務局長とスタッフが出席。 TICAD タスクフォース第 44 回会合：第一天徳ビル会議室 前回議題の確認、第一回 TICAD V に関する外務省・NGO 対話の 総括・評価、今後に向けた取り組み、NGO の調整・連帯等について議論が行われ NGO の緩やかなネットワークとして「TICAD V NGO コンタクトグループ」が作られた。NGO から 42 名の参加、日本リザルツから白須事務局長とスタッフが出席</p>	

13日	<p>世界基金クリストフ・ベン渉外局長と市民社会の交流会 日本国際交流センター主催による会合。白須事務局長と松倉インターンの出席。世界基金のクリストフ・ベン渉外局長から世界基金の改革動向と今後の資金供与システム等について同氏より説明があった。</p>	
14日	<p>財務省主計局大江亨主査との懇談会@日本リザルツ ODA や JICA の資金援助について話し合う為に日本リザルツ主催で財務省主計局の大江亨主査にお越しいただき、NGO 団体との意見交換会を開催した。出席団体はプラン・ジャパン、動く→動かす、難民を助ける会、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、JANIC、マラリア・ノーモア・ジャパン、ミレニアム・プロミス・ジャパンなど多くの団体メンバーに参加いただいた。</p>	
15日	<p>G20 サミット（ロスカボス）に向けて国際連帯税創設を総理大臣へ要請 6月18日から開催されるG20サミット（ロス・カボス）に向けて総理大臣に国際連帯税創設の要請を行った。齋藤勁官房副長官に要請を受けていただき、峰崎直樹内閣参与も参加。出席者は、議員連盟から林芳正会長（自民）、加藤修一副会長（公明党）、石橋通宏事務局次長（民主）、白須事務局長、田中徹二氏（オルタモンド/CIST）、佐藤克彦氏（国際公務労連加盟組合日本協議会）。また外務省は加藤敏幸外務大臣政務官に要請を行った。</p>	
17日	<p>専門家相談会（釜石市旧小川小学校仮設住宅）</p>	
18日	<p>IMF/世界銀行総会 サイドイベント打ち合わせ 世界銀行（東京事務所）にて、10月に開催されるIMF/世界銀行年次総会でのサイドイベントに係る打ち合わせを行った。世界銀行の谷口和繁特別代表、キャロライン・マンデル人事開発局アドバイザー、前田明子人事開発局健康担当課長、開裕香子コミュニケーションオフィサー等6名と活発な意見交換が行われた。日本リザルツからは白須事務局長、新里と鰐部が出席。</p>	
19日	<p>鳩山由紀夫民主党最高顧問へGAVIアライアンス、UNRWAへの支援を要請 鳩山由紀夫民主党最高顧問に対して姫井由美子参議院議員とともに、GAVIアライアンスとUNRWAに対する支援要請した。鳩山顧問からはGAVI、UNRWAとも日本政府にとって重要なパートナーであるため、両機関の支援に向けた働きかけを行っていききたいとの言及があった。更にマラリア感染地域などで遺伝作用として発生する鎌状赤血球症に苦しむ患者への服用薬としてUCLAの新原豊先生が研究に取り組んでおられるので、日本人の医療研究で世界を救うことが出来ないか、日本リザルツに打診があった。</p> <p>マイクロファイナンス研究会に参加 上智大学にて第70回CSRウォッチの会合「BOPビジネスとしてのマイクロファイナンス」が開催された。DWMアセット・マネジメント社日本代表の雨宮寛氏、上智大学の岡田仁孝教授をはじめ、中小企業診断士など、28名が参加。日本リザルツからは「マイクロクレジットの現状：マイクロクレジットサミットキャンペーン報告書」1997-2005年の総括と2011年度版を合わせて40冊配布した。</p> <p>国際連帯税フォーラム理事会 白須事務局長が参加。議連の今後の活動などを協議。</p>	

20 日	<p>厚生労働省唐澤剛技術総括審議官との面談 被さい地の方々と唐澤統括審議官に以下のご検討をお願いした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災におけるグループホームの復旧格差の是正 ・東日本大震災の被さい県におけるグループホームの総量規制の緩和 ・症状別のグループホームの導入と低所得者のグループホームの入居支援 ・グループホームにおける外部サービスの利用可能性と処遇改善加算の趣旨の明確化 <p>駐日カンボジア王国特命全権大使ホニー・モニロット閣下との会見 姫井由美子参議院議員、岡山県美作市議会の小淵繁之議員、安東章治議員、結核予防会結核研究所の石川信克所長、日本リザルツの白須事務局長が表敬訪問。 安東議員はカンボジアへの農業開発支援推進の考えを述べられ石川所長は結核を含めた感染症の対策だけでなく、健康・福祉の分野でも日本からの支援が大きく貢献できると伝えた。</p> <p>IMF/世界銀行総会 NGO と世界銀行幹部との意見交換会 保健、教育、社会的保健分野の NGO と世界銀行タマル・アティンク人間開発総局副総裁との意見交換会が世銀東京開発ラーニングセンターで行われた。世界銀行の上記分野での取り組み、とくに各セクターの戦略と実施についてこの分野で活動する日本の CSO/NGO の活動や問題意識を踏まえた議論が行われた。</p> <p>白須事務局長、衆議院議員会館、参議院議員会館にて GAVI に関するアドボカシー活動</p>	
21 日	<p>白須事務局長、姫井参議院議員とともにアフガニスタン大使館を訪問 駐日アフガニスタン・イスラム共和国大使セイエド・ムハンマド・アミン・ファティミ大使閣下と会見した。 姫井由美子参議院議員に日本リザルツが同行し、アフガニスタンにおける結核対策の重要性を訴えた。話を進めるうちにファティミ大使は UNRWA の清田明宏保健局長とも旧知の仲であることが分かり邂逅があった。</p>	
22 日	<p>白須事務局長、玄葉光一郎外務大臣を訪問 ストップ結核パートナーシップ日本代表理事の森亨氏、田中慶司氏そして白須事務局長の連名で「結核対策の国際協力に関する平成 25 年度予算についての要望」を玄葉光一郎外務大臣に提出。</p> <p>白須事務局長、小宮山洋子厚生労働大臣を訪問： ストップ結核パートナーシップ日本代表理事の森亨氏と田中慶司氏そして日本リザルツの白須事務局長の連名で「平成 25 年度結核対策関係予算についての要望」を小宮山洋子厚生労働大臣に提出。</p>	
23 日～	<p>スタッフ日置とインターン松倉が釜石へ RingRing プロジェクトが本格的に始動。仮設住宅を拠点にアンケート調査を開始。本プロジェクトは刻々と変化する仮設住宅住民の支援に対するニーズを、聞き取り調査によって明らかにしようとするもの。333 名の方からヒアリングを行った。</p>	
24～29	<p>インターナショナル・カンファレンスへ出席するためにハイチへ出張</p>	

日	<p>森安義博士（栄研化学）、森亨先生（結核予防会）、日本リザルツからは白須事務局長、角泰人先生、吉田と村上が出張。ハイチの病院を訪問し、26日には結核予防対策 LAMP 法セレモニー：ハイチの保健省事務次官のガブリエル・ティモテ氏、保健省結核部所長のリチャード・ドメザ医師、在ハイチ日本大使館南健太郎大使と面会。栄研化学株式会社研究開発統括部の森安義博士と、医師の立場から森亨先生と角泰人先生が“LAMP 法”について説明し、日本リザルツの白須事務局長とハイチスタッフの吉田、岩手県遠野事務所の村上が東日本大震災の折にハイチの方々からのご支援の感謝を述べた。その後ハイチの病院数か所訪問、また PNLT ワーキング・グループ会合を実施した。</p>	
25 日	<p>JPF ユニット全体連絡会 日本赤十字社で開催。日本リザルツからは新里が出席した。</p> <p>JANIC 総会 鰐部が出席。各団体との交流を図った。</p>	
27 日	<p>第 7 回お茶っこサロン会議@釜石教育センター 村上、荘司が参加。各団体と情報交換を行った。</p>	
29 日	<p>IMF/世界銀行総会 Japan CSO Network on Global Health ワーキング グループ会合参加 第一回の打ち合わせ。日本リザルツからは鰐部が参加。CSO セミナーとしてユニバーサル・ヘルス・カバレッジをテーマとすることに決定。</p>	
7 月		
5 日	<p>被さい地から野田総理大臣宛ての要望書となる短冊を藤村修官房長官に手交 岡崎トミ子参議院議員（民主党仮設住宅等生活支援対策チーム座長）と稲見哲男衆議院議員（同 チーム事務局長）と被さい者代表として安部瑞、土橋チヨ子、古川貞治、寄松忠の各氏、日本リザルツから白須事務局長、日置、村上が藤村修官房長官に短冊を届けた。被さい者の思いを綴った短冊と共に現在釜石市の仮設住宅で実施しているアンケートで得られた住民の要望や声をまとめた要望書も直接渡した。また野田総理の釜石訪問を併せて要請し、その後、総理の釜石訪問は実施された。</p>	
6 日	<p>ワクチン・デー ベクトン・ディッキンソン（BD）社がワクチン手帳などを配布するので、日本リザルツからは白須事務局長と新里がお手伝いに参加した。</p> <p>アフガニスタン東京会合プレ・イベント 鰐部が参加した。</p>	
8 日	<p>第 2 回 JCV ワクチンシンポジウム/白熱ワクチン教室@ベクトン・ディッソン株式会社社会議室</p>	
9 日	<p>IMF 世界銀行年次総会 CSO 連絡会 第 2 回幹事会 議題は CSO 連絡会解散時の残余財産の帰属先と規約変更、第 2 回セミナー（7 月 30 日）の進め方、第 3 回全体会議（7 月 30 日）の議題、第 3 回セミナーの日程とアイデア等。</p> <p>アフガニスタン会合・フォローアップイベント@国連大学 アフガニスタンの NGO 等に復興 T シャツを手渡した。</p>	
9～18 日	<p>RingRing プロジェクトの釜石市仮設住宅アンケートに追加メンバー投入 鰐部がインターン松倉のサポートとして活動。</p>	
10 日	<p>TICAD V NGO コンタクトグループ会合に参加 来年 6 月に開かれる第 5 回アフリカ開発会議（TICAD V）に向けた NGO の取り組み。11 月の高級実務者会合に向けて、今後取り組みたいこと、キャンペーン等について話し合った。</p>	

	IMF 世界銀行年次総会 CSO 連絡会 第3回幹事会
11日	<p>ハイチ・つなみ募金@水道橋駅</p> <p>白須事務局長、衆議院議員会館、参議院議員会館にアドボカシー活動</p> <p>釜石市仮設住宅運営センターと会談 釜石市仮設住宅運営センターの小池幸一所長へリザルツ遠野事務所からこれまで約一ヵ月間で集まったアンケート調査（住民の声）をもとに作成した報告書を披露。小池所長から釜石市の野田武則市長に届けてもらうよう要請を行った。</p>
	
12日	<p>JCV（世界の子どもたちにワクチンを日本委員会）が来所 JCVの窪田順子氏と安孫子智子氏が日本リザルツを訪問。</p> <p>第104回 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会 IMF 世銀年次総会のサイドイベント等、第19回国際エイズ会議、国連持続可能な開発会議（リオ+20）等が議題となった。出席者は外務省から小沼士郎国際協力局国際保健政策室長、石井みのり事務官、尾崎さくら事務官など。</p>
15日	専門家相談会（釜石市桜木町仮設住宅）
17日	<p>第2回ポスト MDGs に関する外務省・NGO 意見交換会 外務省から松浦博司地球規模課題総括課長、高村麻裕子地球規模課題総括課事務官が出席。</p>
18日	<p>いのちのアサガオプロジェクト 昨年釜石市の仮設住宅の方々が大切に育ててくれた「いのちのアサガオ」から獲れた種子を分けていただき、その種を今年の4月から再び釜石市に届けた。釜石市の住民やボランティアが参加し、約300粒の種を元に種植えを行い、飯坂町平野応急仮設住宅とさくら応急仮設住宅（計68世帯）と福島市双葉町と浪江町の仮設住宅へ届けた。アサガオをプランターに植え替え、約1,200本の苗を渡した。東京にいる日本リザルツスタッフも福島で合流した。</p>
	

<p>20～28 日</p>	<p>リザルツ国際会議（RIC）及び国際エイズ会議（AIDS 2012） 白須事務局長、新里、鰐部がワシントンで開かれたリザルツ国際会議に出席した。21日、毎年恒例のリザルツ国際会議に加えて今年には「第19回国際エイズ会議」が同時に開催され、米国各州、カナダ、英国、オーストラリア、フランス、メキシコ、インド、ケニアを始めとするアフリカ各国から職員や多くのボランティアが集結。ジョアン・カーターはオープニングセッションで演説し、締め括りに安倍晋三前総理と面会したウィンストン・ズルさんの写真がパネルに映し出され、ズルさんの「アドボカシー活動がエイズ、ポリオ、結核に害された僕の心と体に光を与えてくれた」という言葉が来場者全員を感動の渦に巻き込んだ。 リザルツ国際会議では“Princess of Africa”と称され、国連のマラリア親善大使を務めるアフリカの歌姫、イボンヌ・チャカ・チャカと世界基金の資金援助体制、来年6月日本で開かれるTICAD Vについての提案などをディスカッションした。午後は世界基金のムフ・ラマトラペン理事会副議長が貧困からの脱却をテーマに講演。ジェフリー・サックス教授がアフリカのエイズ、マラリア、結核に苦しむ惨状を世界銀行が対応しなかったこと、世界基金を立ち上げる際に奔走したこと、これからの地球規模課題、特に食糧問題、気候変動など、重要なテーマについて語った。 一方、国際エイズ会議ではオープニングセレモニーで世界銀行ジム・キム総裁、UNAIDS ミッシェル・シディベ事務局長他、名だたる著名人がスピーチを行い、バン・ギブン国連総長はビデオメッセージを寄せた。この他ヒラリー・クリントン国務長官などがスピーチを行った。 またリザルツのパートナーやボランティアも参加し、世界銀行とミーティングを行った。日本リザルツ新里、鰐部が参加したのは保健、マイクロファイナンス、教育問題のセッションなど。 夜は国会議員とのレセプションがあり多くの米国会議員、大使、リザルツスタッフやパートナーやボランティアが集まった。</p>	
<p>22日</p>	<p>専門家相談会（釜石市桜木町仮設住宅）</p>	
<p>26日</p>	<p>結核国際研修50周年記念式典・シンポジウム～TB Free World（結核のない世界）の実現に向けた人材育成～ JICA 研究所・国際会議場にて開催。まず結核予防会の総裁である秋篠宮妃殿下のご挨拶、WHO シン・ヨンス西太平洋地域事務局長、山根隆治外務副大臣、辻泰弘厚生労働副大臣、STBJ 田中慶司代表理事が祝辞を述べられた。 記念講演は結核予防会の島尾忠男顧問。記念シンポジウムでは、WHO 西太平洋地域事務局ストップ結核・ハンセン病対策課医官の大菅克知氏、結核予防会結核研究所国際協力部長の山田紀男氏、東海大学教授の武見敬三氏など数多くの関係者から発言があった。特別発言者として、ストップ結核パートナーシップ日本推進議員連盟会長の梅村聡参議院議員、外務省国際協力局国際保健政策室長の小沼士郎氏、厚生労働省大臣官房国際化国際協力室長の武井貞次氏のコメントがあった。リザルツからは日置、藤原の2名が出席した。</p>	

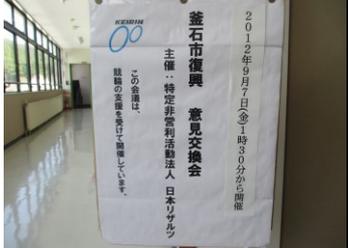
30 日	<p>UNRWA の清田明宏保健局長が日本リザルツ来所</p> <p>IMF/世界銀行総会 CSO セミナー第 2 回 「IMF/世界銀行最新動向と CSO の活動」の第 2 回「IMF/世界銀行を見る市民の視点」に鱈部が司会を務めた。講演は、国際問題評論家の北沢洋子女史による国際金融・債務問題、メコンウォッチ顧問の松本悟氏による開発・環境問題についてそれぞれ取り組んだ経験から興味深い話があった。</p>
8 月	
2 日	<p>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会を参議院会館にて開催</p> <p>参加者は梅村聡、浜田昌良、高階恵美子、逢沢一郎、仁木博文、山崎摩耶、山本博司の各国会議員。厚労省、外務省、結核予防会、大塚製薬、GAVI アライアンス、STBJ、日本リザルツからは白須事務局長以下全員。議題は平成 25 年度結核対策関連予算についてヒアリング。厚労省は平成 25 年度要求額について検討していく旨表明、外務省からは世界基金拠出予算は要求額を今後検討する旨表明、無償資金協力予算・JICA 運営費交付金予算は個別分野毎の予算規模は決まっておらず、途上国の要請に基づいて執行していく由。その他大塚製薬から、日本発の 50 年ぶりの結核新薬「デラマニド」についての説明。ストップ結核パートナーシップの金子洋常任理事からは「結核新ワクチン開発に対する世界銀行への支援署名活動」に係る報告。GAVI アライアンスの北島千佳上級資金調達官からは日本政府の支援強化に向けた要請。栄研化学から LAMP 法を用いた結核検査の説明。結核予防会結核研究所の石川信克所長は「ザンビア国における住民指導による結核/HIV コミュニティ DOTS 対策プロジェクト」を好事例として報告。</p> 
3 日	<p>J-FUN 主催シンポジウムに参加</p> <p>「南スーダンの現状」千葉大学文学部の栗田貞子教授が、南スーダン共和国成立の背景について講演。日本リザルツからもスタッフが出席。南スーダンで活動している日本の NGO（難民を助ける会、ADRA Japan、JEN、日本国際ボランティアセンター）4 団体からの報告。内戦は終結したが国際紛争は続いている状況とのこと。</p> <p>第 1 回 NGO-JICA 協議会@JICA 地球ひろば講堂</p> <p>日本リザルツからもスタッフが出席。JANIC が中心となって、国内 NGO と JICA が意見を交換する会合を年 4 回開催。NGO と JICA の連携や、10 年目を迎えた JICA 草の根技術協力事業について話し合い、各自報告を行った。この種の会合に JICA の理事長が出席されることは今まで無く、今年の 4 月に就任された田中明彦理事長が出席され、これからの NGO と JICA の協力関係について、明るい展望が期待される。</p>
5 日	<p>専門家出張相談会（釜石市野田町仮設住宅）</p>
6 日	<p>GAVI アライアンス北島千佳上級資金調達官が BD を訪問</p> <p>GAVI アライアンスの北島千佳上級資金調達官が企業コラボの件でベクトン・ディッキンソンを訪問、白須事務局長が同行した。</p> <p>UNRWA の神谷望上級渉外担当が日本リザルツ来所</p>
8 日	<p>IMF/世界銀行総会 Japan CSO Network on Global Health ワーキング グループ会合参加</p> <p>ユニバーサル・ヘルス・カバレッジがテーマとして、それに招聘するパネリストの選考に入り、リザルツからパネリストとして古知新先生を推薦した。</p>
8～10 日	<p>UNRWA のトップ交渉を強力にサポート</p> <p>UNRWA フィリップ・グランディ事務局長始め、清田明宏保健局長、ダスティン・オカザキ事務局長特別補佐、神谷望上級渉外担当が訪日、内戦で苦しむパレスチナ難民を人道的見地からも、日本に追加援助を訴えた。参議院議員会館にて「日本・パレスチナ友好議員連盟総会」が開催された。会長である鳩山由紀夫民主党最高顧問、小泉俊明、首藤信彦、橋本勉、平岡秀夫、</p>

	三村和也等各衆議院議員、大野元裕参議院議員、白眞勲、藤谷光信等各参議院議員が出席された。日本リザルツからも白須事務局長を始め、スタッフが出席。また翌日に参議院議員会館にて公明党の山口那津男代表、公明党難民政策 PT 事務局次長の石川博崇参議院議員、浜田昌良参議院議員、同座長の遠山清彦衆議院議員らと会談した。	
10日	ハイチ・つなみ募金@水道橋	
11日	幸せつなごうカー交流会&第一回復興支援に係る意見交換会開催 釜石市甲子町第3仮設住宅談話室にて開催。午前の部では、NPO法人ジャパン・プラットフォームの助成を受けた「幸せつなごうカー」交流会（約50回：メッセージは約300枚の「幸せつなごうカー」）を展示、早稲田大学教授で日本リザルツ理事長の浅野茂隆先生、東京臍帯血バンク幸道秀樹先生、保健師の畠山美代子さんによる血圧測定などを行い、相談に来られた住民一人一人に丁寧にアドバイスした。またNPO法人『難民を助ける会』主催による「ワックスボウル」の手作り体験も併せて実施した。午後は、財団法人JKA（RingRingプロジェクト）の助成を受けて「釜石市復興意見交換会」を開催、各地区の仮設住宅自治会長を始め、住民の方々と専門家を交えて話し合いを行った。「少しでも何かが変わるかもしれない」という希望を持って多くの方々に参加。東京から白須事務局長とリザルツスタッフが駆け付けた。	
14日	国際連帯税フォーラム理事会 日本リザルツから鰐部が出席。	
15日	コンゴ・ジャスティス来訪 澤越久美子副理事と石嶋國晴チーフマネジャーが日本リザルツを訪問。来月慶応義塾大学にて開催するパネル・ディスカッションへの参加を打診された。	
16日	JICAと栄研化学の協議 リザルツから新里と吉田が出席し、LAMP法の推進について協議した。	
19日	専門家出張相談会（釜石市野田第2小学校仮設住宅）	
20日	JPF緊急支援プロジェクト（フィリピン）始動 フィリピン洪水被害支援活動のために吉田、村上が現地へ出発。マニラ市近郊のモンテルパ地区における浸水の被害状況、住民の避難者数、支援物資のニーズ調査を踏まえ、避難所等で生活する住民約3,000人（約600世帯）を対象に食糧等の支援物資を配布。また洪水被害があった居住地域における保健衛生面の条件悪化に備え、現地日本人医師とともに健康調査を実施した。フィリピン・マニラ市近郊のマニラ湾やバエ湖周辺地域では、住居が密集しているバラングイ（最小の地方自治単位）が多く存在し、毎年のように台風や大雨の影響により洪水や家屋の損壊等の被害が発生している。7月末頃からマニラ市に接近した台風9号（SAOLA）により、事業対象地域であるバラングイの住居の殆どが床上浸水し、現状では住民約3,000人は小学校や共有施設等に避難している。緊急支援の一環としてJPFに申請して対応したもの。	
21日	国際連帯税・UNRWAパンフレットを全国会議員に配布	
22日	TICADに向けた打ち合わせ 動く→動かす稲場雅紀事務局長、世界連邦21世紀フォーラム野田武志氏、ミレニアム・プロミス・ジャパン鈴木りえこ理事長、TICAD V学生プロジェクト加藤翼事務局長を交えてTICADVの今後の進め方について協議を行った。 白須事務局長との厚生労働省の麦谷眞里審議官との面談	

22～25 日	<p>リザルツ東北スタッフ全員で釜石の全仮設住宅へ被さいローン減免制度のチラシを配布 スタッフ村上が作成した簡易説明資料を釜石市内の全仮設住宅へ 配布した。今回チラシを配布する事になったのは、制度を知って利 用していただきたいと思ったためであり、村上が毎日必死に夜中ま で書き直し、弁護士と相談しながら作成したもの。</p>	
23 日	<p>エマウス・メディカル・ジャパン社長で UCLA 医学部の新原豊教授来所 鳩山元首相の紹介により UCLA 医学部新原豊教授が日本リザルツ事務所へ来所。鎌状赤血球症 の症状を緩和するグルタミンを研究しており、今後の協働体制を協議。</p> <p>白須事務局長、外務省、財務省、厚労省を訪問</p>	
26 日	<p>第二回東北復興支援に係る意見交換会 大阪帝国ホテルにて WHO で結核、エイズ、マラリア対策本部長を 歴任された古知新博士と、大阪で結核問題の解決のため尽力されて いる高鳥毛敏雄関西大学教授、大阪府立大学岩田雅彦講師、リザル ツインターン松倉の 4 名で有識者会議を実施。</p>	
27 日	<p>岩手県庁を白須事務局長が訪問</p>	
28 日	<p>菅直人民主党最高顧問を浅野茂隆理事長とともに訪問 白須事務局長、新里から GAVI への拠出増額への支援要求につい て、また浅野茂隆理事長から病院船について説明し支援を要請し た。菅前首相は国連から貧困克服等を定めた国連ミレニアム開発目 標 MDG s の期限後の目標策定を助言する「ポスト MDG s ハイパ ネルメンバー」の一人として英国キャメロン首相等とともに選ばれ た。菅前首相は説明に納得し協力する旨表明があった。</p>	
29 日	<p>LAMP 法打合せ 栄研化学から中野安裕取締役、納富継宣研究開発統括部長、STBJ から森亨先生、宮本事務局 次長、日本リザルツから新里が出席して打ち合わせを行った。</p>	

9月	
1日	フィリピン支援の引継ぎ交代員として日置が出発
2日	<p>フィリピン支援でTunasan（トナサン）行政地区担当の方からの御礼状 緊急支援物資活動を受けてトナサン行政地区担当より日本語にて下記の御礼状が届いた。（以下原文まま）</p> <p style="text-align: center;">お礼状</p> <p style="text-align: right;">2012年9月2日</p> <p>日本リザルツ御中</p> <p>この度の 当地の水害において、心温まる支援物資を賜り日本リザルツ様 始め 日本の篤志家の皆様 トナサン 行政地区の住民を代表して 心より お礼い 申しあげます。</p> <p>さて、今、現在当地区の 水位 も 少しずつ では ありますが 下がっ てきており それでも 現在 平均80cmぐらいの 水位 があります。 水位 が 完全に 下がり 被災者 が 通常 の 生活 に 戻れる の は 過去 の経験から おそらく 2, 3か月後に なるだろうと予想して おります。この 地域 の 水位 は 人為的に下げることが 出来ず た だひだずら 神に祈り耐え忍ぶことしか 出来ません。</p> <p>私どもは 去年3月に起きました 東北大震災に おいて日本の被災者の 皆様の毅然とした 態度に深く 感銘を 受けております。大震災の 被災 者 の皆様 そして 福島原発の 地域 の 皆様のご苦勞 を 考えれば、 我々は 弱音を 吐くことは 出来ません。私の好きな日本の ことわざに “Fall 7 times, Get up 8 times.” 七転び、八起き”という言葉があります。そ の 心を 一人でも 多くの同胞に伝えて いきたいと思っています。</p> <p>我々、当地区 行政担当者は 支援 いただきました。日本の皆様、そして、 東北で がんばっていらっしゃる、被災者の 皆様の 心を いつも念頭 に 当地 の 被災者 の心身の “ケア” そして、支援 を行なって い きたいと 思っております。</p> <p>ほんとうに、どうも ありがとう ございました。</p> <p>God Bless The Philippines. God Bless Japan. God Bless Us All.</p> <p>Tunasan Barangay Chairman, Walter A. Arcilla</p>
3日	<p>IMF 世界銀行/IMF 側 CSO (Mark Edward) との面談 白須事務局長、新里にて対応。</p>
4日	<p>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の会長の梅村聡参議院議員を訪問 LAMP 法を開発・販売している栄研化学から納富継宣研究開発統括部長と糶谷伸一経営戦略第 二部長と、白須事務局長が結核議連の梅村聡会長を訪れ、今後の結核対策（LAMP 法をどのよ うに世界に発信出来るか等）について話し合った。</p>
6日	<p>フィリピンの「マニラ新聞」に日本リザルツの支援活動が掲載 フィリピン在留邦人向けに発行されている日刊紙「マニラ新聞」に日本リザルツの緊急支援活 動が掲載された。</p>



	<p>国際連帯税推進のために、財務省、官邸を訪問 財務省では仲浩史 IMF 世銀総会準備事務局長及び事務局担当に 10 月 11 日に青山学院大学で開催される国際連帯税シンポジウムを説明。その後、田中一穂主税局長へ挨拶し、財務省を訪問した趣旨を簡単に説明した。 官邸へは、石橋通宏参議院議員と合流し、齋藤勁内閣官房副長官と面会し、石橋議員が〔平成 25 年度税制改正に向けた国際連帯税に関する提言書〕を説明、推進に向けた具体的なスケジュールを組み立てていきたい旨齋藤官房副長官に要請した。</p>	
<p>7 日</p>	<p>国際連帯税に関する提言書を藤田財務副大臣と加藤敏幸外務大臣政務官に手交 議員連盟の石橋通宏参議院議員、国際連帯税フォーラムの田中徹二氏、吉田にて財務省で藤田幸久財務副大臣と外務省で加藤敏幸外務大臣政務官を訪問して提言書の内容を説明して手交した。</p> <p>ストップ結核推進議員連盟会長梅村聡参議院議員を訪問 栄研化学から納富継宣研究開発統括部長、梶谷伸一経営戦略第二部長、STBJ から森亨先生、日本リザルツから白須事務局長、吉田、新里が出席し、LAMP 法に対する政府助成に向けて支援を要請した。</p> <p>TICAD V NGO コンタクトグループ会合に参加 鰐部が参加。11 月にブルキナ・ファソで開催予定の高級実務者会議について日程等の説明があった。</p> <p>第 3 回東北復興支援に係る意見交換会 日本リザルツが主催して釜石市教育センターの会議室にて復興支援に係る意見交換会を開催。今回は仮設住宅の自治会長とともに釜石市役所の職員にも多く参加いただき、活発な討論が行われた。</p>	 
<p>10 日</p>	<p>IMF/世界銀行総会 Japan CSO Network on Global Health ワーキング グループ会合参加 関係者にて IMF 世銀セミナーの内容につき協議。ユニバーサル・ヘルス・カバレッジというテーマのパネリストとして日本リザルツは古知新先生を引き続き強く推薦した。</p> <p>LAMP 法の普及に向け、外務省小沼士郎国際保健政策室長に説明 LAMP 法の開発者である栄研化学、LAMP 法の推進支援を行っているストップ結核パートナーシップ、結核予防会結核研究所の森亨先生とともに白須事務局長が外務省を訪問。小沼国際保健政策室長には LAMP 法を世界に広めていくための助言を頂き、今後も支援に向けて協力いただくこととなった。</p>	

11日	<p>ハイチ・つなみ募金@水道橋 9月11日、東日本大震災から1年半が過ぎた。水道橋駅東口でハイチと東北の為のつなみ募金を実施した。1年半経った今でも仮設住宅で不安に暮らしている方を忘れないようにするためにも声を大きくして募金の呼び掛けを行った。</p>	
13日	<p>国際連帯税フォーラム理事会 IMF 世銀総会でのサイドイベントに向けて打ち合わせを実施。</p>	
13～29日	<p>『被さいローン減免制度』のチラシを配布 被さいローン減免制度を住民の方にわかりやすく見てもらえるように6月に村上が作成したチラシを持参し、広報活動を展開。配布した住宅は釜石市仮設住宅 3164 戸、釜石雇用促進住宅 320 戸、大槌町仮設住宅 2081 戸、陸前高田市仮設住宅 2148 戸、大船渡市仮設住宅 1810 戸。そして「みなし仮設」と呼ばれる仮設住宅以外の民家や市営アパート、雇用促進住宅に避難されている方々へ釜石市福祉協議会の皆さんの協力によって届けられた。</p>	
14日	<p>ファンドレイジングセミナー JICA 主催によるパートナーのためのセミナー。鰐部が出席。</p> <p>IMF/世界銀行総会 CSO 連絡会第3回幹事会 白須事務局長、鰐部が幹事として出席。</p> <p>大臣官房医療イノベーション推進室訪問 栄研化学、ストップ結核パートナーシップ、リザルツアドバイザーの角泰人先生と共に白須事務局長は内閣官房医療イノベーション推進室を訪問。中山智紀企画官と広瀬大也企画調査官と面会、LAMP 法開発者である納富継宣研究開発統括部長がその経緯や診断の流れなどを説明。世界で普及していくための様々なアドバイスを受けた。</p>	
15日	<p>専門家出張相談会（野田町第2仮設住宅） 東京から幸道秀樹先生にお越しいただき、健康の相談会と個別訪問を行った。</p>	
17日	<p>コンゴ・ジャスティス主催「アフリカ問題のパネルディスカッション」に参加 慶応義塾大学日吉町キャンパスで開催された上記イベントに鰐部が出席。アフリカ問題について広く討論された。参加者は100名程度。</p>	
19日	<p>TICAD V NGO コンタクトグループ会合に参加 鰐部が出席。ブルキナファソ・ワガドゥグの高級実務者会合への参加するメンバーでワガドゥグ委員会を結成。吉田がワガドゥグに参る予定。</p>	

20日	<p>2012年結核予防週間（9月24日～30日）にむけて～記者発表 結核予防週間に前に、厚生労働省記者会見室に於いて『結核予防週間に向けて～国内外の結核事情と結核対策の革新』についての記者発表が行われた。結核研究所所長の石川信克先生により国内結核の概況、結核研究所名誉所長でストップ結核パートナーシップ日本代表理事の森亨先生により世界の結核の現状が、それぞれ報告。また医療分野でも高い技術力を持つ日本で開発された2つの新結核対策技術が紹介された。一つ目は大塚製薬医療品事業部抗結核プロジェクトの木下明督氏から新規抗結核薬デラマニド（Delamanid）。これは50年ぶりの結核新薬で多剤性結核の治療にも使える薬剤である。二つ目は栄研化学の研究開発統括部の富田憲弘氏と開発者の納富継宣研究開発統括部長が発表した新規結核診断法 LAMP 法。通常の PCR より簡単に遺伝子増幅が可能となる画期的な診断法である。</p> <p>LAMP 推進、外務省国際協力局開発協力総括課へ説明 開発協力局総括課の本清耕造課長、須田敦課長補佐、国際保健政策室の尾崎さくら外務事務官が同席したところで LAMP 法推進の意義等を白須事務局長より説明。</p>	 
26日	<p>TICAD V NGO コンタクトグループワガドゥグ委員会 ブルキナファソ・ワガドゥグの高級実務者会合への参加者のみで準備会合を実施した。</p> <p>IMF/世界銀行総会 CSO セミナー第3回目 今回は内海会議室にて「IMF/世銀の最新動向と CSO の活動」というテーマで財務省の山崎達雄国際局長や谷口和繁世界銀行駐日特別代表、石井詳悟国際通貨基金（IMF）アジア太平洋地域事務所所長をパネリストとして、IMF と世界銀行が今回の総会で重視していることや CSO 側からの評価や疑問点を幅広く話し合った。</p>	
27日	<p>「動く→動かす」運営委員会議 プラン・ジャパンにて開催。鰐部が運営委員として出席。</p>	
27～28日	<p>専門家個別訪問（釜石市箱崎地区仮設住宅） 仮設住宅での現状調査と健康についてのアドバイスのため保健師の畠山美代子氏が27日は箱崎町地区、28日は唐丹町地区にて仮設住宅を戸別訪問。</p>	
28日	<p>参議院、衆議院議員会館にてアドボカシー活動 白須事務局長が終日、両議員会館にて GAVI アライアンスなどのアドボカシー活動を実施。</p>	
29日	<p>TICAD 勉強会 JICA に勤務している元 NGO 高木晶弘氏より過去の TICAD 経緯など教授いただく。吉田、鰐部、加藤が参加。</p>	
10月		
1日	<p>国連人口基金（UNFPA）シンポジウムに出席。 白須事務局長は議員会館でのアドボカシー活動後、国連大学にて開催された国連人口基金（UNFPA）東京事務所主催による「21世紀の高齢社会にどう挑むのか」記念シンポジウムに出席。</p>	
2日	<p>国際連帯税フォーラム理事会 IMF 世銀セミナー直前の理事会。出席者対応を含め最終確認。</p>	
4日	<p>ストップ結核ジャパンアクションプラン第9回フォローアップ会合 外務省、厚生労働省、国際協力機構、結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本からそれぞれ代表者が会して今年度の上半期の活動報告や今後の結核対策活動などについての報告。日本リザルツからも白須事務局長と新里が出席。</p>	

	<p>支援団体の連帯：「大船渡アクション・定例ネットワーク会議」 県外や地元 NGO/NPO 団体、社会福祉協議会をはじめ政府関係者が参加した。多くの団体がいろんな支援活動を行う中で、統一性を持ち、重複を避けるため、それぞれの活動の情報交換の必要性、そして今後の協力体制について話し合った。</p>	
5 日	<p>第 105 回 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会 今回で 105 回目。JICA からアジア・パシフィック・ディベロップメント・サミットの報告とその後国連総会に於ける保健関連イベントを外務省の小沼士郎国際協力局国際保健政策室長からの説明。大場雄一国際協力局政策企画官から平成 25 年度概算要求における説明があった際に世界基金への拠出金に係る今後の動向について質問や意見が集中した。また第 19 回国際エイズ会議に出席した動く→動かすの稲場雅紀事務局長、日本リザルツの鰐部から報告を行った。同時期に開催されたりザルツ国際会議の開会式でジョアン・カーターから、日本が東日本大震災に遭ったにも拘らず 2012 年度の世界基金への拠出額を 3.4 億ドルに増やしたことを大きく評価している旨併せて説明した。</p> <p>グローバルフェスタ・スタンドアップイベント@代官山 グローバルフェスタ直前の動く→動かす主催によるイベント。ボランディアの水澤茂氏とスタッフ鰐部が出席。スタンドアップに参加した。</p>	
6～7 日	<p>グローバルフェスタ@日比谷公園 10 月 6 日は日本政府により「国際協力の日」と定められ、NGO、国際機関、政府が協働して開催し、国民の皆様にも国際協力に感心を持ってもらう趣旨で毎年行われているイベント。日本リザルツも出店し、GAVI アライアンス（ワクチンと予防接種のための世界同盟）、UNRWA（パレスチナ難民救済事業機関）、ストップ結核パートナーシップ日本、りこちゃんキャンペーン（親子新法制定活動）、国際連帯税等のリーフレットの説明と配布活動（各 5,000 部）を行った。</p>	
8 日	<p>IMF/世界銀行総会 理事達とのラウンドテーブル 白須事務局長が参加。</p>	
9 日	<p>国際連帯税サイドイベント準備 関係者が賀川事業団の雲柱社へ集合して最終確認作業を行う。</p> <p>第一回 TICADV に関する外務省・NGO 政策対話 外務省アフリカ部麻妻信一アフリカ第二課長、ブルキナファソ・ワガドゥグでの高級実務者会合及び共催者とのセッション等について協議。</p>	
10 日	<p>TICAD V NGO コンタクトグループワガドゥグ委員会-JICA の協議 ブルキナファソ・ワガドゥグに行くメンバーが参加して事前の打ち合わせを行った。</p> <p>IMF/世界銀行秋期総会 ・RESULTS 主催の教育セミナー 10 日に REF のトニー・ベーカーがコーディネートしたセミナーを開催。貧困国（特にサハラ以南のアフリカ）の教育問題における世銀の関与を検証するもの。パネリストは OXFAM International のキャティ・ボウス教育・保健政策アドバイザーや世界銀行のキャロライン・マンデルコミュニケーションアドバイザー、トニー・ベーカー、司会はシャンティ国際ボランティア会の三宅隆史事務局長。RESULTS UK のダン・ジョーンズが進行をサポート。</p>	

・ **ストップ結核パートナーシップ日本のシンポジウム**
 11日にストップ結核パートナーシップ「結核国際研究」を事例とした国際保健人材育成のシンポジウムに日本リザルツの招きでハイチ保健人口省結核対策部のリチャード・ドメザ氏もパネリストの一人として参加。結核予防会が行っている結核研修卒業生であり、ハイチでの結核患者発見率の低さが問題で引き続き日本からのハイチ支援が必要であると訴えた。栄研化学の森安義氏は途上国での結核診断法として有効な LAMP 法を説明。



・ **GAVI アライアンス、日本医療政策機構、UNICEF 東京事務所と協賛**

IMF/世銀総会のサイドイベントとして、シンポジウム「グローバルヘルスと企業戦略：多様かつ革新的なパートナーシップモデル」が、富士フィルム株式会社東京ミッドタウン本社の会場にて行われた。国際保健に関連したプロジェクトにおける、企業と他機関とのパートナーシップの事例を紹介し、そのメリットや障壁などを検討しながら、パートナーシップ形成の動きを奨励することが目的で開催された。質疑応答のコーナーでは、日本リザルツ理事長の浅野茂隆先生からも、こうした活動の継続性を問う鋭い質問などがあり、内容の濃いものであった。参加人数約 200 名。



・ **国際連帯税シンポジウム@青山学院大学本多国際会議場**

世界の貧困問題や気候変動に対処する革新的な資金メカニズムは欧州では急速に議論され、航空券連帯税や金融取引税の導入に注目が集まった。林芳正議連会長から挨拶、続いてハイディ・ハウタラフィンランド国際開発大臣は連帯税を求める国際組織のリーディング・グループ議長が話し、パスカル・カンファンフランス開発大臣からはビデオメッセージ、石井正文地球規模課題審議官からも国際連帯税に加えて GAVI アライアンス等地球規模に対応する組織を応援する等の発言があった。第一セッションでは上村雄彦横浜市立大学教授や石橋通宏参議員議員が参加し、第二セッションではリザルツの ACTION パートナーのパトリック・ベルトランがモデレータを務めた。最後に白須事務局長が国際連帯税を求めるアピール文を読み上げた。



・ **CSO タウンホール・ミーティング**

11日夕刻にクリスティーン・ラガルド IMF 専務理事、ジム・キム世界銀行総裁との CSO タウンホール・ミーティングに参加。

・ **CSO ポリシーフォーラム・Japan CSO Network on Global Health によるセミナー開催**

12日に CSO ポリシーフォーラム・保健 CSO ネットワークによるセミナーを開催。セミナー1「保健への投資～だれのために？」では、経済危機が保健財政に与えた影響と“包摂的成長”アジェンダが保健医療サービスの普遍化にもたらす機会とリスクについて議論（司会者は NHK 解説委員の道博愛子氏、パネリストに世界銀行、NGO が参加）。セミナー2「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ～定義、目的、達成手段」では、昨今、よく目にするユニバーサル・ヘルス・カバレッジが実践面でどのようなものであるべきか、それをなぜまたどのようにして達成すべきなのかについて過去の政策事例と人権の観点から討論された（司会者は稲場雅紀氏、スピーカーは古知新博士を始めロブ・イエイツ WHO 保健エコノミスト、ジョン・マハマガーナ国民保健活動コーディネーター他）。

・ **GAVI・世界銀行セミナー**

「予防接種への投資：保健関連 MDG s へのコストエフェクティブな道」：途上国及びドナー国の財務大臣や財務関係者が集まり、GAVI やワクチン提供に関する資金提供の意義等が議論された。

・ **ポスト MDG s に関するプログラム・オブ・セミナー**

JANIC、動く→動かす共催。題名は「2015 年以降のグローバルな開発枠組み・ミレニアム開発目標の時期枠組みが果たす役割はあるか」。鰐部が参加。

12 日

GAVI アライアンス セス・パークレー博士の面談

	菅直人前首相と GAVI アライアンス事務局長セス・バークレー博士との面談をアレンジ。また財務省主計局岡本薫明次長、福田淳一次長などキーパーソンとも面談した。	
13 日	<p>専門家による地域医療視察随伴 元 WHO の結核、エイズ、マラリア対策部長の古知新博士と白須事務局長が東北を訪問。気仙沼市立本吉病院を見学。この病院は東日本大震災で被災し、1 階部分がすべて津波で流された。一時的に常勤医師が不在という状態もあったが、その後改装され、全国から駆け付けたボランティア医師たちで地域医療を支えた。現在は 2 名の常勤医師がいるが、慢性的なスタッフ不足に悩まされている。</p> <p>医師と保健師による巡回相談（釜石市箱崎町地区仮設住宅） 幸道先生、畠山保健師による巡回訪問。第 3 仮設住宅（20 戸）、A 仮設住宅（12 戸）、D 仮設住宅（6 戸）など。街中から外れた沿岸部に位置する箱崎町では、若い人の姿はほとんど無く、高齢者の方ばかりである。医者や保健師が来訪することによって仮設住宅居住者にも安心感を与えることが出来た。</p>	
16～19 日	<p>RESULTS&ACTION パートナー会議がワシントンで開催 白須事務局長、鰐部、新里が出席。16 日に各国 RESULTS のディレクター会議。午後、ACTION のディレクターも参加しての会議。そしてゲイツ財団のアドボカシー・ポリシー・チームのプログラムオフィサーのエリカ・アーン女史が結核や HIV 戦略の概要などの話をした。17 日に各国スタッフ出席者と「世界を変えるために、今何をすべきか」などを協議。午後はジョアン・カーターが世界銀行を保健分野にもっとコミットさせるためのアクションの起こし方についてモデレート。18 日は子供の健康問題を語るセッション。5 歳未満での死亡の原因の多くは肺炎、下痢等。この問題の解決に主体的に取り組む国際保健組織が無い点をどうすべきかを話し合った。GAVI アライアンスでのセッションでは子どもの死亡率の話と重なり、議論は白熱。続いてアフリカ問題：ザンビアのパートナーからの報告。午後は様々な課題をもとに議論大会。ACTION の価値とは？活動の評価を如何にすべきか。あるべきアドボカシーの姿とは？続いて第 2 部では議員団との折衝法、活動を支援するチャンピオンの発掘、今後の課題などについて討論した。19 日は GAVI、ワクチン、アドボカシーの 3 つのセッションにわかれての意見交換会、特に GAVI、ワクチンに関しては 2012 年 12 月に GAVI アライアンス・パートナーズフォーラム、2013 年 3 月に TB Vaccine Forum の世界会議を控え、どのようにアドボカシーに利用するかという戦略を話し合った。次に R&D セッションでは日本リザルツから新規結核診断ツール『Lamp 法』（発展途上国 向けに開発された簡易な設備と機器と 50 年ぶりに開発された新規結核ワクチンについて紹介。また会議ではポスト MDGs や今後の ACTION の在り方などについても話し合った。</p>	  
22 日	<p>TICAD V NGO コンタクトグループ会合に参加 鰐部が出席。同会合の司会を担当。</p> <p>アエラスのトム・エバンス社長との会合 アエラスからの懇請により白須事務局長がトム・エバンス副社長と会い、結核ワクチンへのファンドについて協議。</p>	
23 日	<p>岩手県釜石市箱崎町 C 仮設住宅談話室にて『ふれあい教室』開催 65 才以上の高齢者に対し、長く自立した生活が営めるよう支援。閉じこもり防止、要支援・要介護状態の予防を図るための教室。今回は釜石市を中心に支援活動を行っている「日本聖公会」</p>	

	に協力いただき、当団体と共に住民の送迎を行った。	
25 日	<p>親子ネットの神部進一代表と橋本美知太郎運営員との会合@日本リザルツ ハーグ条約の批准への推進に向けて親子ネットの推進に向けて日本リザルツにて関係者が集まり協議した。</p> <p>加藤翼（早稲田大学 TICAD V 学生プロジェクト事務局長）事務所に来訪。 日本リザルツに来所し、プロジェクトの進捗状況を報告。今後、毎週木曜日に打ち合わせを行うことにした。</p> <p>結核新ファンドに係る面談 白須事務局長と独立行税法人医薬基盤研究所保富康宏教授が武見敬三前参議院議員に結核新ファンドについて説明。</p> <p>小沢一郎衆議院議員等との面談 白須事務局長が釜石出張前に復興支援について小沢一郎衆議院議員と話し合いを行った。</p> <p>岩手県達増拓也知事との面会 白須事務局長が釜石市の被さい地の実情を説明すべく知事と面談を行った。</p>	
26 日	<p>日本リザルツ新パンフレット打ち合わせ 日本リザルツのパンフレットを改訂するため関係者でミーティングを行った。</p> <p>結核予防会にて WHO 小野崎先生と LAMP 法について協議 WHO 結核対策部の小野崎郁史先生を招いて LAMP 法の WHO の承認に向けた話し合いが行われた。小野崎先生からの説明で、WHO から LAMP 法の承認を得る上では認証の役割が製品自体の認可等ではなく、製品が実際の結核対策の現場に適するようなポリシーガイドランスを作ることから、LAMP の使用がふさわしい状況を見極められ、強みを生かしていくような戦略作りを行う必要があること等言及された。打ち合わせには、栄研化学、ストップ結核パートナーシップ日本、結核予防会結核研究所、日本リザルツ等が参加した。</p>	
26～29 日	<p>白須事務局長、釜石出張 出張相談会フォローアップ&今後の活動に向けた調査。</p>	
27 日	<p>専門家出張相談会（釜石鶴住居地区） 地元の針灸指圧師の古川貞治先生と盛岡はまなす針灸治療院の佐藤明先生が施術。また東洋医学について簡単な講座が行われ、出席した方達は興味深く、佐藤先生の話に耳を傾けていた。</p>	
28 日	<p>専門家出張相談会（釜石市大石地区仮設住宅） 幸道秀樹先生による高血圧についての講座が行われ、保健師の畠山さんは血圧を測りながら健康づくりのアドバイス、そしてリザルツのボランティアの水澤さんはバイオリンを演奏していただいた。幸道先生の釜石での活躍が毎日新聞で紹介された。</p>	
30 日	<p>韓国フォーラム事前打ち合わせ@STBJ 患者ネットワーク設立に向けた打ち合わせ。出席者は STBJ 成瀬氏、下谷氏と白須事務局長。</p>	
31 日	<p>第二回 TICAD V に関する外務省・NGO 政策対話 鰐部が出席。主要な議題はワガドゥグで開催される高級実務者会議に向けた準備等。</p>	

11月		
1日	<p>逢沢一郎衆議院議員と面談</p> <p>白須事務局長が自民党の逢沢一郎衆議院議員に面会。各方面から、世界基金に対する2012年度補正予算及び2013年予算が低調になりそうとの情報を得て急ぎ協力を要請したもの。逢沢先生からは早急に対応したいとの心強い言葉を頂く。動く→動かすの稲場雅紀事務局長、マラリア・ノーモア・ジャパンの飯塚由美子事務局次長と一緒に参加した。</p>	
6日	<p>第5回現地会議 in 岩手に参加</p> <p>白須事務局長、鰐部が、東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) の主催による「第5回現地会議 in 岩手」に参加。釜石市以外の被さい地情勢の確認及び今後の協力団体の確保に向けたもの。</p>	
7日	<p>TICADV 学生プロジェクト キックオフイベント</p> <p>TICADV 学生プロジェクト キックオフイベントに白須事務局長を始めスタッフ全員で参加。本プロジェクトはJICA、ADCが共催しており、日本リザルツは外務省、UNDP、世界銀行、横浜市とともに後援している。白須事務局長より「We ♥ Africa」のTシャツを全員で持ってTICAD推進に向けて盛り上げようとのスピーチがあった。</p>	
9日	<p>第4回東北復興支援に係る意見交換会</p> <p>早稲田大学西早稲田キャンパス 55号館 S棟竹内記念ラウンジにて第4回復興支援に係る意見交換会を当団体と、早稲田大学重点領域研究機構東日本大震災復興研究拠点・先端環境医工科学研究所と共催で実施。被さい者、国会議員、専門家、有識者、学生など多くの参加者から貴重な提言や発言があり、中身の濃い意見交換会となった。</p>	
11~19日	<p>TICAD V 高級実務者会合 in ブルキナファソへ参加</p> <p>吉田がブルキナファソのワガドゥグで開催されたTICAD V 高級実務者会合の市民社会代表メンバーとして出席。市民社会セッションや共催者との会合に参加した。2日間のワークショップで話し合った内容を一つの提言にまとめ、TICADに向けたアフリカ市民社会を統括している団体であるCCfAの副事務局長ムアンゴ・ムーキ氏が発表した。</p>	
12日	<p>国際連帯税フォーラム理事会</p> <p>国際連帯税フォーラム理事会。日本リザルツから代表理事として白須事務局長が出席。</p> <p>ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口</p> <p>東日本大震災から丁度1年8ヵ月、今回は親子ネット代表にも参加いただき募金活動を行った。</p>	
13~16日	<p>第43回国際肺結核疾患連合 (UNION) カンファレンスに出席</p> <p>白須事務局長、新里がマレーシアで開催された第43回国際肺結核疾患連合 (UNION) カンファレンスに出席。会議では、技術的な発表の他にも、CSOの活動を紹介するセッションが設けられ、アクションメンバーによるアドボカシー活動等が実施された。また会議期間中、ZERO TB Deathを訴えて、RESULT・ACTIONのパートナーや患者活動家とともにカンファレンス会場内を回る楽しいデモを行った。WHOのマリオ・ラヴィリオン結核対策部長も手を振って応援した。</p>	
14日	<p>各政党、有力国会議員にマニフェスト提言書を送付</p> <p>衆議院選挙の日程等が正式に決定したことを受けて、候補者を擁立する15の全政党に対して結核、ワクチン、国際連帯税などに係わるマニフェスト提言書を鰐部が作成して一斉に送付した。また併せて国際協力関係などで過去に協働した有力な超党派国会議員47名に対しても同様の</p>	

	マニフェスト提言書を送付してお願いした。	
20日	UNRWA 推進に向けて外務省と協議 白須事務局長は、外務省国際協力局青木豊緊急・人道支援課長と UNRWA に対する支援のために話し合いを行った。	
20～24日	第一回東南アジア・西アジアナショナルストップ結核パートナーシップフォーラムに出席 白須事務局長が韓国ソウル市で開催された第一回東南アジア・西太平洋ナショナルストップ結核パートナーシップフォーラムに参加。ストップ結核パートナーシップ日本のメンバーとともにアジア地域内における患者ネットワーク設立を提唱し会場から賛意の拍手を得た。元 MDR-TB（多剤耐性結核）患者、ストップ結核パートナーシップ理事成瀬匡則氏もスピーチした。	
26日	TICAD V NGO コンタクトグループ会合に参加 TICAD V コンタクトグループ開催。鰐部が出席し政策対話を担当。	
27日	JICA にアドボカシープロジェクトを提案 白須事務局長、新里が JICA へ赴き、乾英二アフリカ部長、渡辺学人間開発部次長へアドボカシープロジェクトの必要性と可能性についてプロポーザルを用いて説明。	
29日	衆議院議員へのアドボカシー活動 白須事務局長、衆議院議員会館へ赴き、世界基金関連で国会議員にアドボカシー活動。 エイズシンポジウムに出席 政策研究院大学で開催された日本国際交流センター主催のエイズシンポジウムに鰐部が参加。ピーター・ピオット博士の講義やアジア経済研究所のケーススタディ等を聴講した。	
30日	結核予防会にアドボカシープロジェクトを説明 新里が結核予防会国際部の竹中伸一副部長へ JICA に対して進めているアドボカシー・プロジェクトについて事前説明を実施。 「3.11 以後を生きるヒント」が出版 「何度でも足を運んで」という題名でスタッフ日置が当団体の活動を記した上記書籍が出版された。	
12月		
1～4日	ケニア出張 白須事務局長、新里がケニアへ出張。目的はケニア国内における JICA 結核プロジェクトの拡大実施の要求。ケニア国内における来年度からの結核プロジェクト拡大（現行の数倍）を JICA が確実に実施するよう、JICA 現地事務所などへ働きかけを行うとともに JICA の新規事業として、アドボカシー・プロジェクトへの支援を提案し、ケニア国内でプロジェクトを実施するよう働きかけを行った。出張期間中に高田稔久ケニア特命全権大使、ピーター・アニャン・ニョンケニア医療サービス大臣と、ACTION メンバーである KANCO と面談。またケニア国内の結核治療を行うクリニック訪問および在宅治療の現場等での KANCO によるアドボカシー事業を視察した。また元患者であったヘルスケアワーカーと交流した。	 

3～7日	GAVI アライアンス・パートナーズフォーラム in タンザニア 白須事務局長、新里がタンザニアで開催された GAVI アライアンス・パートナーズフォーラムに出席。フォーラム初日は、RESULTS/ACTION も参加する GAVI CSO constituency の主催によるセッションが実施された。CSO の活躍の一方で、現在 GAVI 理事会の中に CSO の席がたった 1 席しかないことに言及があり、本フォーラムでそうした点の改善を GAVI に訴えるための CSO からの提言書の作成に向けた話し合いが行われた。	
5日	マーテリー・ハイチ大統領へ LAMP 法説明 吉田、鰐部にてハイチ大使館主催のレセプションへ出席し、来日したミシェル・マーテリー大統領と大統領夫人へハイチでの LAMP 法事業を紹介する機会を得た。大統領夫人より大きな関心をいただき翌月にハイチに出張する際の面談について確約を得る。	
6日	TICAD V 保健政策提言メンバーに参加 GII/IDI ミーティングに鰐部が参加。会議席上で TICAD V に対する保健政策提言を行うメンバーを募った。日本リザルツは MDG4 及び MDG6 の目標におけるワーキンググループに参加。	
7日	JANIC 25 周年記念式典へ参加 鰐部が JANIC の 25 周年記念講演会へ出席。	
10日	ハイチ・つなみ募金@水道橋駅東口 毎月恒例の募金活動を実施。今回はエマウス・メディカルジャパンと親子ネットからもサポートメンバーが来てくれて、総勢 7 名で募金活動を行った。寒い日ではあったが精力的に行った。今後も毎月 11 日前後に必ず行う予定。	
12日	ストップ結核パートナーシップ日本理事会 白須事務局長、ストップ結核パートナーシップ日本理事会に出席。11 月のアジア域内患者ネットワーク設立に向けて話し合われた。	
12日～ 13日	パリ出張 鰐部、パリ出張時に国際連帯税推進に向けた関係強化のために革新的資金メカニズムにおけるリーディンググループ担当者と面談。その後、主要な NGO 団体である AIDES、Coalition PLUS、Oxfam France を歴訪して意見交換を行った。	
13～14日	OECD 主催「国境なき税務監査人イニシアティブ」へ参加 鰐部、OECD パリ本部で開催された「国境なき税務監査人」プロジェクトに開発側 NGO の立場で参加した。会議後、玉木林太郎 OECD 事務次長（前財務官）と面談した。	
13日	世界基金を支援する主要 NGO4 者会議、日本リザルツで開催 世界基金をサポートする主要 4 団体（(公財) 日本国際交流センター、(特活) アフリカ日本協議会、(特活) マラリアノーモアジャパンと日本リザルツ）の協議を日本リザルツで実施。主な議題は TICAD V に向けた世界基金関係のコーディネーションについて。	
14日	財務省との面談 白須事務局長、財務省主計局の木原大策主査と面談。	
17日	結核ワクチン開発に向けた協議 白須事務局長、独立行政法人医薬基盤研究所保富康宏教授、ストップ結核パートナーシップ日本金子洋常任理事、厚生省関係者とともに結核ワクチン開発に向けたミーティングに参加。今後の開発計画について詳細を討議した。	

<p>20 日</p>	<p>関東学院大学を訪問 会計総務担当の臼井が関東学院大学を訪問し、卒業生である小泉進次郎衆議院議員との面談の可能性について打診した。</p> <p>TICAD V NGO コンタクトグループ会合に参加 鰐部、TICADV コンタクトグループに参加。</p> <p>早稲田大学主催復興シンポジウムに参加 村上、鰐部が早稲田大学重点領域機構東日本復興研究拠点・先端環境医工科学研究所が主催する公開シンポジウム第二部パネルディスカッションに参加し被災地の現状について説明した。</p> <p>毎日新聞に GAVI アライアンス関連記事掲載 毎日新聞の「ひと」欄に GAVI アライアンス事務局長のセス・バークレー博士の記事が掲載された。</p>
<p>22 日</p>	<p>朝日新聞へ予防接種のための国際金融ファシリティー関連記事掲載 朝日新聞の「私の視点」に予防接種のための国際金融ファシリティー理事長 (IFFIm) のレネ・カーセンティ博士の記事が掲載される。</p>
<p>25 日</p>	<p>財務省及び世界銀行訪問 鰐部、財務省大臣秘書室を訪問し世界基金に対する予算動向を聴取した。その後世界銀行東京事務所を訪問した際に世界銀行ロゴ入りの T シャツを宣伝用として頂いた。</p>
<p>27 日</p>	<p>世界基金アドボカシーを全国議員に展開 世界基金の予算動向に対して全国議員に注意喚起させるべく、衆議院議員、参議院議員 722 名全員に向けて世界基金への支援強化を訴える緊急メッセージ・レターを作成し、スタッフが手分けして各事務所へ届けた。</p>

